

Ⅰ．評価規準 観点別学習状況の「B」に相当するものが、評価規準です。

単元など	主な評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第一部 世界と日本の地域構成 【１学年】	世界の地域構成について、大陸と海洋の形状や分布、おもな国々の名称と位置、緯度や経度について理解しその知識を身に付ける。日本の地域区分に慣れ、特に7地方区分については地方名を含め地図上で身に付ける。	様々な世界地図の長短について理解し、球面と平面の違いを説明することができる。標準時と時差のしくみを通して、地球上で日本と世界の位置関係をとらえ、地図帳や等時帯の地図を活用し、日本と世界の国々との時差の求め方考察できる。	世界の地域構成について、地域区分を理解し、その知識を身に付けるとともに、日本の国土の位置および領域の特色と変化を世界的な視野から多面的・多角的に考察し、日本の現状と位置と領域の面から大まかにとらえる。
第二部 世界のさまざまな地域 【１学年】	世界の人々の生活や環境が多様で、その暮らしが変化していくのは、自然条件や社会条件によることを理解する。世界の諸地域の自然環境、産業、生活や文化、歴史的背景などの特色について概観し、地球儀や地図帳などを活用しながら、それぞれの基礎的・基本的な知識を身に付ける。	世界各地の多様な生活や文化、自然環境などについて、地球儀や世界地図を用いて示すことができる。地域の環境条件や他地域との結びつき、人間の営みとの関わり等からとらえた世界の諸地域の地域的特色を理解したことを説明することができる。	世界の諸地域に関する統計資料の分析、雨温図や主題図・写真の読み取りや比較・関連づけ等の地理的技能を活用する。世界各地の人々の多様な生活と環境に対して関心を持ち、主体的に追及しようとしている。
第三部① 地域調査のしかた 【１学年】	地図や景観写真、統計資料などを的確に読み取る技能や、地域調査を行う際の視点、方法を理解する。	地図の学習で縮尺・方位・等高線・地図記号など地形図の読み取り方を身に付け、地域調査で活用できるようにする。	身近な地域の関する疑問や調査するテーマを多面的・多角的に考察し、地域の特色や課題を主体的に追及しようとしている
第三部② 日本のさまざまな地域 【２学年】	日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解する。写真、図版、地図、雨温図など、様々な資料を適切に選択して、日本の地域的特色を読み取り、理解することができる。日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分する技能を身に付ける。	日本の自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信などの地域的特色が、どのような課題を抱えているのか、多面的・多角的に考察し、説明することができる。	自然災害への対応や人口減少に伴う少子高齢化など、身近な地域や生活との関わりに着目して、日本の地域的な課題について主体的に追及しようとしている。また、日本の自然環境や人口、産業、交通・通信の特色に着目して、日本の地域区分を主体的に粘り強く追及している。
第三部③ 日本の諸地域 【２学年】	7地方区分の各地方の地形や気候などの自然環境に関する特色を理解する。また、地図や統計、分布図などから各地方の産業や特色などについて、それらの課題を読み取るができる。	各地方の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。地図・写真・統計など身近な地域に関する資料から有用な情報を選択することができる。	各地方において、よりよい社会の実現を視野に、各地方ごとの特色から人々の生活や産業などの地域的特色を主体的に粘り強く追及している
第四部 地域の在り方 【２学年】	地域の課題について、解決に向けて考察・構想したことを適切に説明するとともに、地域の実態や課題解決のための取組を理解できる	地域の課題を解決するために必要な取り組みを多面的・多角的に考察しているとともに、よりよい地域の在り方を主体的に考察・構想し、表現している。	地域の発展や持続可能な社会を目指すために、これからの地域の在り方について関心を持ち、持続可能な地域の在り方を主体的に粘り強く追及している

1. 評価規準 観点別学習状況の「B」に相当するものが、評価規準です。

単元など	主な評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第一章 歴史へのとび ら 【1 学年】	年代の表し方や時代区分の意味や意義について基本的な内容を理解している。資料から歴史にかかわる情報を読み取ったり、年表にまとめたりするなどの技能を身に付けている。	時期や年代、水位、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分とのかかわりなどについて考察し表現している。	私たちと歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
第二章 古代までの日本 【1 学年】	世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。日本列島における農耕の始まりから律令国家の確立に至るまでの過程や文化の形成において東アジアの影響を受けたことを理解している。	古代文明や宗教がおこった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
第三章 中世の日本 【1 学年】	鎌倉幕府の成立から室町幕府、日明貿易などを基に、武士が台頭していき、武家政治の展開とともに、東アジアの世界との密接なかかわりが見られたことを理解している。農業などの諸産業の発達や自治的な仕組みの成立から応仁の乱後の社会的変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
第四章 近世の日本 【1・2 学年】	ヨーロッパ人來航の背景とその影響により、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。江戸幕府の成立による社会、民衆の変化による各地方の生活文化が生まれたことを理解している。その後の社会の変動や欧米諸国の接近などを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解している。	交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会変化による幕府政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業、江戸幕府と民衆の変化について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
第五章 開国と近代日本の歩み 【2・3 学年】	欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。開国後の日本の影響や自由民権運動、日清日露戦争などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。開国後の国民生活の変化や科学・技術の発展により、近代産業、近代文化が形成されたことを理解している。	工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外国の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会とのかかわり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	近代（前半）の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
第六章 二度の世界大戦と日本 【3 学年】	第一次世界大戦の背景とその影響、民衆運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。第二次世界大戦終結までの我が国と国際情勢などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。	経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相好に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現、第二次世界大戦と人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多角的・多面的に考察し、表現している。	近代（後半）の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
第七章 現代の日本と私たち 【3 学年】	冷戦、我が国の民主化と再建の過程、高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動き、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、新しい日本の建設や国際社会における我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。	諸改革の展開と国際社旗の変化、政治の転換と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会、グローバル化する世界について、現代の様子を多面的・多角的に考察している。これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって考察、構想し表現している。	現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。

Ⅰ．評価規準 観点別学習状況の「B」に相当するものが、評価規準です。

単元など	主な評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 現代社会と私たち	現代社会の特色や、現代社会における文化の意義や影響について理解し、その知識を身に付けている。	現代社会の特色や、現代社会における文化の意義や影響について、地理的分野や歴史的分野の学習内容や、それぞれの事象の位置や空間的な広がり、推移や変化、相互の関連などに着目して多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	現代社会の特色や日本の伝統や文化に対する興味・関心を高め、それらが社会生活にどのような影響を与えているか、また、自分たちはその中でどのように生きていくべきかなどについて、意欲的に考えている。
第2章 個人の尊重と日本国憲法	人間の尊重の考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、「ちがいのちがい」などの対話的な活動を通じ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について、多面的・多角的に考察、表現している。	現代の社会事象を踏まえ、人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第3章 現代の民主政治と社会	国や地方公共団体の政治の仕組みについて、主権者の立場から理解し、その知識を身に付けている。	政治に関する様々な事象や課題について、対立と合意、効率と公正などの観点から多面的・多角的に考察するとともに、主権者としての政治参加の在り方について考えている。	国や地方公共団体の政治に対する関心を高め、学習に意欲的に取り組んでいる。
第4章 私たちの暮らしと経済	身近な消費生活を中心に、経済活動の意義について理解している。	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任や、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、現代社会の生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けた学習を通して、主体的に社会に関わろうとしている。その際、自らの学習を振り返りながら調整し、粘り強く取り組んでいる。
第5章 地球社会と私たち	世界平和の実現と人類の福祉の増大の観点から、国家相互の主権の尊重と協調、各国民の相互理解と協力の重要性について理解している。	様々な統計資料や写真、新聞記事などの読み取りを通して国際社会が抱える諸課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの観点を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに、それらを解決する方法について、持続可能な社会の観点からの確に表現している。	国際社会の抱える諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追及し、より良い地球社会を築くための解決策について考え続けようとする態度が見られる。

社会科 評価計画 【1・2・3学年共通】

①下記の資料を総合して評価します。

- ・定期考査 ・小テスト ・授業プリント ・ミニレポート
- ・提出物の内容 ・授業への取り組みの姿勢

②観点別評価と各評価資料との関係 ※観点別評価で、各資料がどのくらいの割合を占めるか示しています。

◎…とても重視する ○…重視する △…参考にする場合がある

観点 \ 学習活動	重み付け	定期考査	小テスト	授業プリント	ミニレポート	提出物の内容	授業への取り組み
知識・技能	100	◎	○	◎	◎	○	○
思考・判断・表現	100	◎	○	◎	◎	△	○
主体的に学習に取り組む態度	100	○	△	◎	◎	○	◎